

中学校国語（1年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 必要に応じて質問をしたり、相手の発言を聞いて自分の考えをまとめたりすることができている。 設問1三五
- ◇ 語句を的確に用いて書くことができている。 設問2一四
- ◆ 叙述の仕方を確かめて、適切に書き換えることに課題が見られる。 設問2一二
- ◆ 段落相互の関係を捉えたり、文章の展開に即して内容を捉えたりすることに課題が見られる。 設問3三四

■ 特に課題が見られた設問3四の誤答例(・)と解説

<p>・水冷式で、脳があまり熱くならないので、長く眠らなくても脳を冷やすせるから。</p> <p>・水の中で生活しているの、それだけで十分脳が冷やされるから。</p>	<p>・クジラやイルカは、有利なのは水の中で、もともと水冷式だから。</p> <p>・クジラやイルカは水冷式で、あまり脳を使わないから。</p>	<p>・クジラやイルカは、ときどき半球ずつ眠っているから。</p> <p>・鳥は脳が小さいので、眠らなくてもいいから。</p>
<p>水で脳を冷やすことができるので、たくさん眠らなくてもよいということを捉えることはできているが、主語を入れて書くという条件を満たしていない。</p>	<p>クジラやイルカが水冷式であるということを捉えることはできているが、水で脳を冷やすことができるということを捉えることができていない。</p>	<p>文章の展開に即して、「クジラやイルカは水の中で生活しているの、水で脳を冷やすことができる」という内容を捉えることができていない。</p>

■ 設問3四の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

生徒が、文章の展開に即して内容を捉えることができるようになるためには、以下の授業例のように、各段落の要点を捉えたり、段落のつながりを考えたりするような指導をすることが大切です。

① 文章を読んで、各段落の要点を捉える。

筆者は、「たぶんそんなにたくさん眠らなくてもいいのだと思います」と述べていますが、なぜそのように考えたのでしょうか。その根拠を捉えるために、段落ごとの要点を確認してみましょう。

① 脳は発熱器官

②

③ 睡眠によって脳を冷やすことが必要

④ イルカやクジラはどうやって眠る？

⑤ イルカは、脳を半分ずつ眠らせる

⑥ クジラやイルカは水冷式で有利

たぶんそんなにたくさん眠らなくてもいいのだらう

①・②段落では、脳が大量のエネルギーを消費する発熱器官だということを述べています。

③段落には、脳は発熱器官だから、睡眠をとることによって冷やすことが必要だということが書かれています。

④段落には、「泳ぎ続けるクジラやイルカ、飛び続ける渡り鳥は、どうやって眠るのか」という疑問が書かれています。

⑤段落には、イルカが大腦半球を半分ずつ眠らせるということが書かれています。

⑥段落では、クジラやイルカが水冷式だから有利だということが述べられています。

② どの段落が筆者の考えの根拠になっているのかを捉え、まとめる。

筆者の考えの根拠が述べられているのは何段落ですか。

⑥段落です。

そうですね。では、「筆者の考えの根拠は、」という書き出しで、根拠をノートにまとめてみましょう。

筆者の考えの根拠は、クジラやイルカは水の中にすんでいるので、水で脳が冷やされるということです。

中学校国語（2年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 目的に沿った話し合いになるように適切に意見を述べたり、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話したりすることができている。 設問 1 二五
- ◇ 書いた文章を読み合い、自分の表現に役立てることができている。 設問 2 六
- ◆ 単語の類別を理解することに課題が見られる。 設問 4 二
- ◆ 表現の仕方について自分の考えをもつことに課題が見られる。 設問 4 五

■ 特に課題が見られた設問 4 五の誤答例(・)と解説

<p>・「ほっとして」は、(原稿を読み終えたこと)に対して、「深く安堵の息を吐き」は、(みさとが手を向けたこと)に対して安心したという気持ちを表していると思います。</p>	<p>・「ほっとして」は、(自分)に対して、「深く安堵の息を吐き」は、(自分の言葉が伝わったこと)に対して安心したという気持ちを表していると思います。</p>	<p>・「ほっとして」は、(緊張)に対して、「深く安堵の息を吐き」は、(とても緊張したこと)に対して安心したという気持ちを表していると思います。</p>
<p>「ほっとして」が原稿を読み終えたことに対する気持ちであることは書いているが、「深く安堵の息を吐き」がみさとの言葉が伝わったことに対する気持ちであるということが書けていない。</p>	<p>「深く安堵の息を吐き」がみさとの言葉が伝わったことに対する気持ちであることは書いているが、「ほっとして」が原稿を読み終えたことに対する気持ちであるということが書けていない。</p>	<p>「ほっとして」が原稿を読み終えたことに対する気持ちであること、「深く安堵の息を吐き」がみさとの言葉が伝わったことに対する気持ちであること、そのどちらも書けていない。</p>

■ 設問 4 五の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

生徒が、表現の仕方について自分の考えをもつことができるようになるためには、以下の授業例のように、表現を比較して共通点や相違点を捉えたり、自分の考えを伝え合ったりするような指導をすることが大切です。

① 文章を読んで、心情を表す表現を探す。

文章を読んで、みさとの心情を表す表現に線を引いてみましょう。

原稿を読み始めたばかりの時は、「肩に手がのるのを感じた」とあるな。読んでいる途中は、「夢中で読む」で……。

安心した対象が違うということは分かりますが、安心したという気持ちを表すだけなら、同じ表現でもいいのではないですか。

みさとは自分の言葉を伝えようと思って原稿を読んだので、言葉が伝わったと感じたときの安心の方が、原稿を読み終えたときよりも強かったということを表現しているのではないのでしょうか。

② 心情を表す表現を比較して、どのような違いがあるのか、なぜそのような表現をしたのか話し合う。

皆さんが見付けた心情を表す表現の中で、「ほっとして会場を見渡す」、「深く安堵の息を吐き」という表現を比較してみましょう。どのような共通点、相違点があるのか、なぜそのような表現をしたのか、グループで話し合ってください。

「ほっとして」も「安堵」も安心する気持ちを表すところは共通していると思います。でも、「安堵」という言葉の方が、安心したという気持ちが強い気がします。

「ほっとした」のは原稿を読み終えたときで、「安堵」は自分の言葉が伝わったときという違いがあるから書き分けたのではないですか。

③ グループで出た意見を全体で共有する。

安心の気持ちを表す点は共通していますが、「安堵」の方が、安心の気持ちが強いと考えました。

私たちの班は、みさとが自分の言葉が伝わったと感じた時の安心の方がより強かったことを表現するために、表現を書き分けたと考えました。

<p>共通点 ○安心したという気持ちを表す</p> <p>相違点 ○安心した対象が違う ○安心の度合いが違う</p>	<p>「ほっとして」と「安堵」</p> <p>自分の言葉が伝わったと感じた時の安心の方が、より強かったことを表現している</p>
--	--

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,940	67.4	3.9	70.5	50.5	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.2	1.8	69.0	49.0	◎
	書く	5	60.5	4.4	69.0	49.0	
	読む	5	51.9	4.4	69.0	49.0	
	漢字の読み	5	87.8	2.5	73.0	53.0	◎
	漢字の書き	5	72.6	7.4	71.0	51.0	◎
	語句に関する知識	6	61.4	3.2	71.7	51.7	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.2	1.8	69.0	49.0	◎
	②書く	5	60.5	4.4	69.0	49.0	
	③読む	5	51.9	4.4	69.0	49.0	
	④知識・理解・技能	16	73.1	4.3	71.9	51.9	◎
問題形式	選択式	13	65.3	1.3	71.9	51.9	
	短答式	14	75.3	4.6	72.1	52.1	◎
	記述式	4	46.4	10.1	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	3	49.6	10.8	56.7	36.7	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	一	話をしっかりと聞き、整理する	○					○					64.3	0.2	75	55	
1	二	話合いの話題や方向を捉えて司会の役割を果たす	○					○					63.4	0.3	75	55	
1	三	必要に応じて質問をする	○					○					83.7	0.2	70	50	◎
1	四	相手に分かりやすい語句を選択して話す	○					○					82.6	0.3	70	50	◎
1	五	相手の発言を聞いて自分の考えをまとめる	○					○			○	62.2	7.9	55	35	◎	
2	一	集めた材料を目的に応じて整理する	○					○					61.6	1.5	70	50	
2	二	叙述の仕方を確かめて、適切に書き換える	○					○			○	36.8	7.9	70	50	▼	
2	一三ア	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「親生まれ」				○			○				73.7	11.4	70	50	◎
2	一三イ	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「厚く」				○			○				78.6	4.6	70	50	◎
2	一三ウ	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「減らす」				○			○				88.3	3.2	70	50	◎
2	一四	語句を的確に用いる	○					○					71.4	1.9	70	50	◎
2	二	伝えたい事実が明確になるように書く	○					○			○	59.5	9.9	60	40		
2	三	目的に応じて書く材料を集める	○					○					73.4	1.0	75	55	
3	一	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「絶えず」			○				○				95.2	1.9	75	55	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	
3	二	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分ける		○					○		○			48.9	2.4	75	55	▼
3	三	段落相互の関係を捉える		○					○		○			44.0	1.7	70	50	▼
3	四	文章の展開に即して内容を捉える		○					○		○	○		27.1	14.6	55	35	▼
4	一	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「告げた」			○					○				94.1	1.9	75	55	◎
4	二	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する		○					○		○			66.6	1.4	75	55	
4	三	文節の区切りを理解する					○			○				37.6	1.4	70	50	▼
4	四	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する		○					○		○			73.1	2.0	70	50	◎
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「沿岸」			○					○				79.0	3.6	70	50	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「志す」			○					○				85.5	2.1	75	55	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「究極」			○					○				85.0	2.8	70	50	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「危険」				○				○				66.7	6.2	70	50	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「郵便」				○				○				55.5	11.6	75	55	
5	三	文脈の中で語句を正しく使う					○			○				62.4	1.5	70	50	
5	四	文字と紙面の調和を考えて楷書で書く					○			○				87.2	1.6	75	55	◎
5	五1	歴史的仮名遣いについて理解する					○			○				61.1	4.6	75	55	
5	五2	古文のおおよその内容を理解する					○			○				71.2	6.1	70	50	◎
5	五3	文語のきまりを踏まえて古文を読み、古典の世界に触れる					○			○	○			48.8	4.1	70	50	▼

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,662	68.7	5.4	69.7	49.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	81.7	1.2	69.0	49.0	◎
	書く	5	53.8	4.7	65.0	45.0	
	読む	5	65.2	7.6	67.0	47.0	
	漢字の読み	5	83.4	4.0	73.0	53.0	◎
	漢字の書き	5	63.7	11.9	73.0	53.0	
	語句に関する知識	6	65.0	3.6	70.8	50.8	
評価の観点	①話す・聞く	5	81.7	1.2	69.0	49.0	◎
	②書く	5	53.8	4.7	65.0	45.0	
	③読む	5	65.2	7.6	67.0	47.0	
	④知識・理解・技能	16	70.3	6.3	72.2	52.2	
問題形式	選択式	14	67.9	1.5	70.4	50.4	
	短答式	13	74.3	8.1	73.1	53.1	◎
	記述式	4	53.1	10.6	56.3	36.3	
活用	「活用」に関する問題	3	48.8	10.4	55.0	35.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成		おおむね達成
1	一	話の論理的な構成や展開に注意して聞く	○					○						89.6	0.3	70	50	◎
1	二	目的に沿った話合いになるように適切に意見を述べる	○					○						90.3	0.3	75	55	◎
1	三	話の材料を多様な方法で集める	○					○						74.1	0.4	75	55	
1	四	資料を効果的に活用して話す	○					○						87.2	0.9	70	50	◎
1	五	話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話す	○					○			○	○	67.4	4.0	55	35	◎	
2	一	多用な方法によって材料を収集する	○					○						30.2	0.6	70	50	▼
2	二	文章の構成を工夫して書く	○					○						55.0	0.7	70	50	
2	三	書いた文章を読み返し、分かりやすい文章にする	○					○						68.8	0.9	70	50	
2	四	具体例を加えて、分かりやすく伝える	○					○			○	○	48.9	9.8	55	35		
2	五ア	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「効率」				○			○					78.3	6.2	75	55	◎
2	五イ	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「仮定」				○			○					68.4	7.4	75	55	
2	五ウ	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「防ぐ」				○			○					91.8	5.4	75	55	◎
2	六	書いた文章を読み合い、自分の表現に役立てる	○					○			○			65.9	11.3	60	40	◎
3	一	抽象的な概念を表す語句に注意して読む	○					○			○			87.6	1.0	70	50	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	
3	二	例示の効果を考え、内容を理解する		○					○		○			66.5	1.7	70	50	
4	一ア	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「響く」			○				○		○			97.1	2.0	75	55	◎
4	一イ	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「快い」			○				○		○			59.6	7.7	75	55	
4	一ウ	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「盛り」			○				○		○			96.5	2.1	75	55	◎
4	二	単語の類別について理解する					○		○		○			28.3	2.2	70	50	▼
4	三	描写の効果を考え、内容を理解する		○					○		○			74.3	2.2	70	50	◎
4	四	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する		○					○		○			67.3	15.5	70	50	
4	五	表現の仕方について自分の考えをもつ		○					○			○	○	30.2	17.4	55	35	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「威勢」			○				○		○			92.9	2.8	70	50	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「継承」			○				○		○			70.8	5.6	70	50	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「尋ねる」				○			○		○			31.5	16.5	70	50	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「隠さず」				○			○		○			48.6	24.0	70	50	▼
5	三	文脈の中で語句を正しく使う(同訓異字)				○			○		○			84.8	1.5	70	50	◎
5	四	目的に応じて、適切な書体や筆記具を選んで書く				○			○		○			41.9	2.3	65	45	▼
5	五1	歴史的仮名遣いについて理解する				○			○		○			83.7	4.4	75	55	◎
5	五2	古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える				○			○		○			79.0	5.9	75	55	◎
5	五3	古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の 思いを想像する				○			○		○			72.0	5.2	70	50	◎